

## (再版) 日本科学未来館をたずねて 大武逞伯



日本科学未来館は、東京お台場にあり、先端科学技術を伝える貴重なそしてユニークな国立の科学館です。館長は宇宙飛行士の毛利衛さん。今回は毛利さんが2000年にエクアドルのキトを訪れ、HCJB 日本語放送にインタビュー出演されたご縁でお邪魔する事が出来ました。未来館は、ガラス張りのモダンな建物で、1階、3階、5階が展示場になっています。1階はシンボル展示 Geo-Cosmos が頭上に浮かぶシンボルゾーンと、企画展などが行なわれる企画展示ゾーン、ミュージアムショップのフロアです。Geo-Cosmos(ジオ・コスモス)は、1000万画素を超える高解像度で、宇宙空間に輝く地球の姿をリアルに映し出す、日本科学未来館のシンボル展示です。有機ELパネルを使った世界初の地球ディスプレイで、宇宙飛行士が「宇宙から見た輝く地球の姿」を実感できる貴重な展示です。3階は、常設展示「未来をつくる」のフロアです。5階へはオーバルブリッジ(回廊)でつながっています。5階は、常設展示「世界をさぐる」のフロアです。今回は、科学コミュニケーターの田端萌子さんの案内で3階の展示から見学をしました。3階は、「これから先、私たちはどんな方法で豊かさを築いていけばいいのでしょうか？ 私たちが望む社会や暮らしのかたちを描きだし、その夢がどんなアイデアによって実現されるか」を考えるゾーンです。3階の目玉の一つは二足歩行ロボット「ASIMO」の実演です。14時からの実演を見学しましたが、舞台の前は期待に目を輝かせた少年少女たちで一杯でした。担当の科学コミュニケーターの合図でASIMOが登場すると大きな拍手がわき起こり、ASIMOはまずお辞儀をして丁寧な自己紹介をしました。そして、早足での歩行やサッカーボールを蹴って観客代表に受け取ってもらうデモ、更に観客と一緒にダンスをするなど、見ている子供たちをすっかりとりこにしてみました。実演の間には日本のロボット技術とその応用の紹介もありました。実演終了後、我々は技術革新の原動力となる「ものづくり」、未来の暮らしを示す展示「2050年暮らしのかたち」などを見て、回廊を経て5階へ移動しました。5階は、「世界をさぐる」ゾーンです。「私たちはなぜ今、ここに存在しているのでしょうか？ 宇宙や太陽系、地球環境、そしてそのなかで育まれる生命など、私たちをとりまく“世界”のしゅきを、さまざまなスケールでさぐる」ゾーンです。宇宙、太陽系、地球、地球環境、生命、人間、医療などのテーマが展示されています。ここでは、宇宙へ人工衛星を打ち上げる大きなLE-7Aエンジンや、日本の誇る有人潜水調査船「しんかい6500」の実物大模型などが見られます。また、地球をテーマにした展示に「高感度地震観測網」があります。そこで、日本全国800カ所に埋められた地震計からのデータが見られます。この展示を見ると、我々の住む日本がいかに地震の活発な地域であり、それを理解して防災に努めることの重要性を認識させてくれます。全ての展示が、第一線で活躍する科学者、技術者の監修で制作されており、大人にも十分楽しめる展示がされており、大変勉強になる所であることが実感できました。そうこうしている内に、毛利館長とのお約束の面談時間となってしまう、会議室へ移動しました。すぐに毛利館長が来て下さり、尾崎さんとキト以来13年ぶりの再会を喜び合いました。その2000年以降、毛利さんは宇宙飛行士からこの未来館の館長就任、尾崎さんはエクアドルを離れ娘さんの居られる米国への移住、そしてオーストラリア中継での日本語放送再開とお互いの人生に大きな変化がありました。しかし、元気に東京で再会出来たことはこの上もなくうれしいことです。このあと、毛利館長との貴重なインタビューが行われました。(大武逞伯)

行士が「宇宙から見た輝く地球の姿」を実感できる貴重な展示です。3階は、常設展示「未来をつくる」のフロアです。5階へはオーバルブリッジ(回廊)でつながっています。5階は、常設展示「世界をさぐる」のフロアです。今回は、科学コミュニケーターの田端萌子さんの案内で3階の展示から見学をしました。3階は、「これから先、私たちはどんな方法で豊かさを築いていけばいいのでしょうか？ 私たちが望む社会や暮らしのかたちを描きだし、その夢がどんなアイデアによって実現されるか」を考えるゾーンです。3階の目玉の一つは二足歩行ロボット「ASIMO」の実演です。14時からの実演を見学しましたが、舞台の前は期待に目を輝かせた少年少女たちで一杯でした。担当の科学コミュニケーターの合図でASIMOが登場すると大きな拍手がわき起こり、ASIMOはまずお辞儀をして丁寧な自己紹介をしました。そして、早足での歩行やサッカーボールを蹴って観客代表に受け取ってもらうデモ、更に観客と一緒にダンスをするなど、見ている子供たちをすっかりとりこにしてみました。実演の間には日本のロボット技術とその応用の紹介もありました。実演終了後、我々は技術革新の原動力となる「ものづくり」、未来の暮らしを示す展示「2050年暮らしのかたち」などを見て、回廊を経て5階へ移動しました。5階は、「世界をさぐる」ゾーンです。「私たちはなぜ今、ここに存在しているのでしょうか？ 宇宙や太陽系、地球環境、そしてそのなかで育まれる生命など、私たちをとりまく“世界”のしゅきを、さまざまなスケールでさぐる」ゾーンです。宇宙、太陽系、地球、地球環境、生命、人間、医療などのテーマが展示されています。ここでは、宇宙へ人工衛星を打ち上げる大きなLE-7Aエンジンや、日本の誇る有人潜水調査船「しんかい6500」の実物大模型などが見られます。また、地球をテーマにした展示に「高感度地震観測網」があります。そこで、日本全国800カ所に埋められた地震計からのデータが見られます。この展示を見ると、我々の住む日本がいかに地震の活発な地域であり、それを理解して防災に努めることの重要性を認識させてくれます。全ての展示が、第一線で活躍する科学者、技術者の監修で制作されており、大人にも十分楽しめる展示がされており、大変勉強になる所であることが実感できました。そうこうしている内に、毛利館長とのお約束の面談時間となってしまう、会議室へ移動しました。すぐに毛利館長が来て下さり、尾崎さんとキト以来13年ぶりの再会を喜び合いました。その2000年以降、毛利さんは宇宙飛行士からこの未来館の館長就任、尾崎さんはエクアドルを離れ娘さんの居られる米国への移住、そしてオーストラリア中継での日本語放送再開とお互いの人生に大きな変化がありました。しかし、元気に東京で再会出来たことはこの上もなくうれしいことです。このあと、毛利館長との貴重なインタビューが行われました。(大武逞伯)



## サタデー・トーク

## バイブル・トーク

きき手 尾崎一夫 毎週土曜日放送		淀橋教会 峯野龍弘主管牧師 毎週日曜日放送	
4月5日	日本科学未来館をたずねて 大武逞伯	4月6日	創世記(人の誕生)
4月12日	クリスチーンのアメリカ新発見の旅	4月13日	創世記(エデンの園)
4月19日	復活節(イースター)特集1	4月20日	復活節(イースター)特集2
4月26日	いよ子さんの「サボテン日記」	4月27日	お便り交換の時間

放送後の番組は、ホームページ(<http://reachbeyondchowder.jp>)のトップページ左側メニューにある『インターネット放送』のリンクページからお聴きいただけます。(mp3形式)

放送時間: 日本時間 午前7時半~8時 17.650kHz (再放送) 午後8時~8時30分 11.905kHz  
(米国アリゾナ州制作/オーストラリア送信)

